

# 震災避難者に和みの時間



東日本大震災で被災し、京都周辺に避難している人たちを対象とした催し「和みの場」が27日、京都市左京区の真宗大谷派岡崎別院で催された。参加者約30人を、僧侶やボランティアがもてなした。

岡崎別院 僧侶らもてなし

## 邦楽や薄茶楽しむ

避難者同士の交流と親睦を目的に、別院が初めて開催した。参加者たちは、箏の弾き方を学んだり、茶室で薄茶を味わった。マジックの披露や法話もあり、ゆったりと流れる時間を過ごした。

仙台市の男性(48)は、福島第一原発事故を受け、妻と子ども2人を京都市内に避難させている。男性は「避難したばかりのころ、妻はさみしそつでした。今ではアパートや周囲に友人もできました。こういう催しで人と出会える。人の優しさを感じています」と話した。

別院は、今後も季節ごとに「和みの場」を催す予定で、福田大輪番(53)は「避難者は、現在でも生活の中で緊張している。ほっとできる時間を提供し、共有したい」と話した。

(箕浦成克)

茶室で薄茶を味わう参加者たち(京都市左京区・真宗大谷派岡崎別院)